

先週の礼拝メッセージ(2022年2月27日) ベン牧師

「補う合うことにより」 エフェソの信徒への手紙 4:16

ここ数週間、4章からイエス様が教会にさまざまな働き人を立ててくださり、その働き人によってクリスチャン一人一人が整えられ、成長していくというお話をしてまいりました。

今日の箇所は、そのまとめとなるようなみことばです。

「キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分に應じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。」(16節)

体というのは教会のことです。あらゆる節々とは、その教会に属しているクリスチャン一人一人のことです。

クリスチャンの成長とは、キリストに似た者となることを目指すことです。当然個々のクリスチャンの成長は教会の成長につながります。

4:16では、教会の働きや成長を、実際の体に例えて表しています。

私たちは賜物も違えば、性格や経済状況もそれぞれに違います。ですから、画一的に、皆が同じことをするようには言わず、分に應じて働くようにと神様はおっしゃるのです。それぞれが持っているものを用いて、神様に仕えていくのです。

16節で興味深いのが、「補い合う」という言葉が、「部分」ではなく「節々」にかかっているということです。「節々が補い合う」というのです。

私は若い頃ラグビーをしていましたが、ある試合で膝を痛めました。何年か後に、その



時傷めた膝が痛みだし、歩くのも困難になったことがあります。その時、私の太ももふくらはぎもなんの問題もありませんでした。しかし、それらを繋ぐ膝の関節が痛むと、太ももふくらはぎも健康なのに、歩くことができないのです。

教会にもそれと同じことが言えます。賜物豊かな人がどれだけいても、それぞれに争いや批判があると、神様はその賜物を用いて業を進めることができないのです。節々(関節)は互いに補うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされるのです。ですから、お互いに愛し合う、受け入れ合うという節々の働きがないと、教会はギクシャクしてしまいます。

自分の分に應じて与えられている賜物を用いて、喜んで神様に仕えていこう、他の人を愛していこうと願う時、それぞれの賜物が生きて用いられ、互いの欠けを補い合えるのです。

これは教会だけでなく、一般の会社や家庭内でも言えることではないでしょうか。

教会が健全に成長していく上で大切なことは、能力がどれだけあるかではなく、節々であるクリスチャンがどれだけ補い合っているかなのです。

どんな状況の中でも、補い合い、結び合わされ、分に應じて働き、愛によって造りあげられていくなら、教会はおのずと成長するのです。

私たちは、一人ひとりが神の前にどのように歩むかが問われます。しかし、私たちは決して1人ではありません。キリストの体の一部として、愛を実践していこうではありませんか。私たちは生かされて生きています。だからこそ、わたしたちを生かしてくださっている神様のために、補い合う節々となり、愛によって成長していく教会でありたいと心から願います。